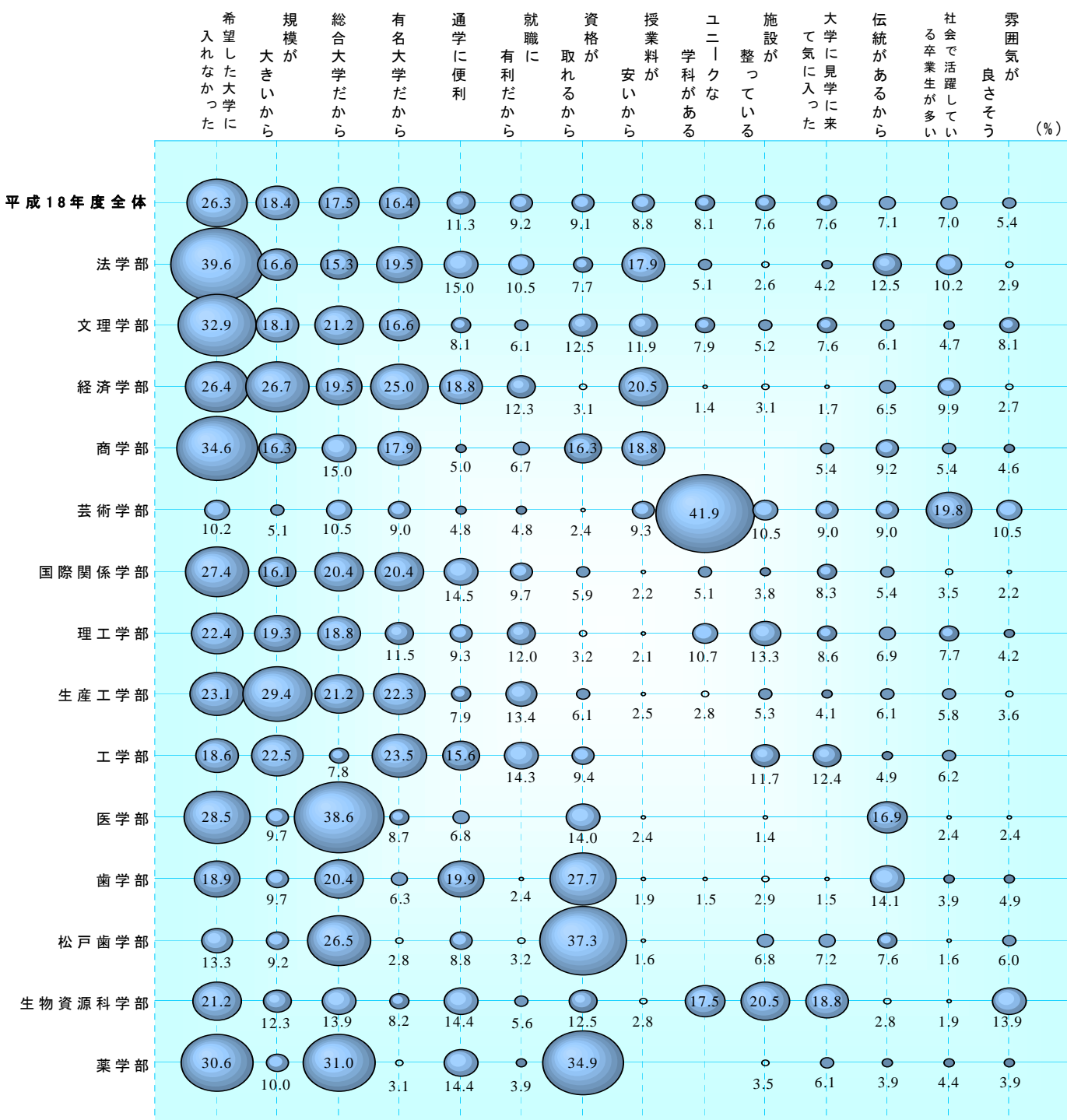


## 第7章 入学から現在までの意識と行動

### 1. 日大入学の理由

国内の私立で最大の総合大学であることや知名度が入学理由の上位。  
 人文系学部では「希望した大学に入れなかったから」入学した学生の比率が高い傾向。  
 芸術学部は「ユニークな学科があるから」が入学理由のトップ。

本大学に入学を決めた理由を、全体での高い順(出現比率5%以上)に並べたものが下図です。全体で見ると理由は分散していますが、中でも「希望した大学に入れなかった」が26.3%で最も高くなっています。次いで「規模が大きい」(18.4%)、「総合大学だから」(17.5%)、「有名大学だから」(16.4%)と国内の私立大学で最大の総合大学であることや、知名度が入学理由の上位に挙げられています。学部別に見ると、法学部・商学部・文学部では「希望大学に入れなかったから」という学生が33%以上と高くなっています。芸術学部では「ユニークな学科がある」(41.9%)、医学部では「総合大学だから」(38.6%)、松戸歯学部と薬学部では「資格が取れるから」(37.3%と34.9%)がそれぞれ入学理由のトップとなっています。

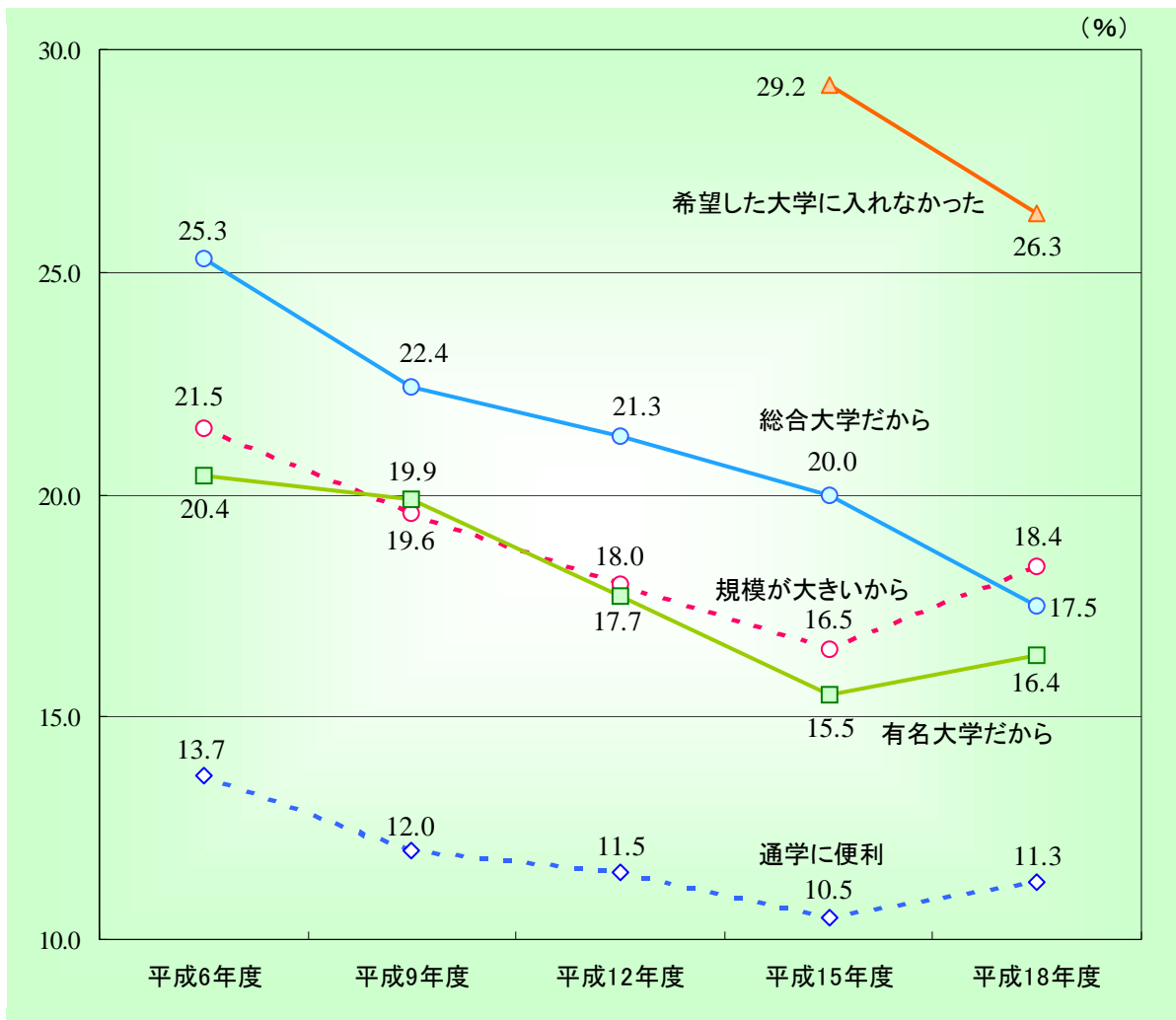


## 2.日大入学の理由—主なものの経年変化

「希望した大学に入れなかったから」入学した学生は3年前より2.9ポイント減少。  
工学部・生物資源科学部・経済学部では減少幅が大。

本大学入学を決心した理由のうち上位5位までの経年変化を見ると、「希望した大学に入れなかったから」は調査項目に含まれた3年前の29.2%から2.9ポイント減少しています。工学部・生物資源科学部・経済学部では9～11ポイントと減少幅が大きくなっています。不本意入学の減少は学部の魅力が強まったことに加えて、大学全入時代が近づき日大が推薦・AO入試枠を増やした結果、希望したところに入学できた学生が増加していることも関係していると思われます。他の理由については平成6年度から全般的に通減傾向を示していますが、「規模が大きい」「有名大学」「通学に便利」は3年前より1～2ポイント増加に転じています。「通学に便利」は、歯学部・工学部・法学部で5～7ポイント増となっています。

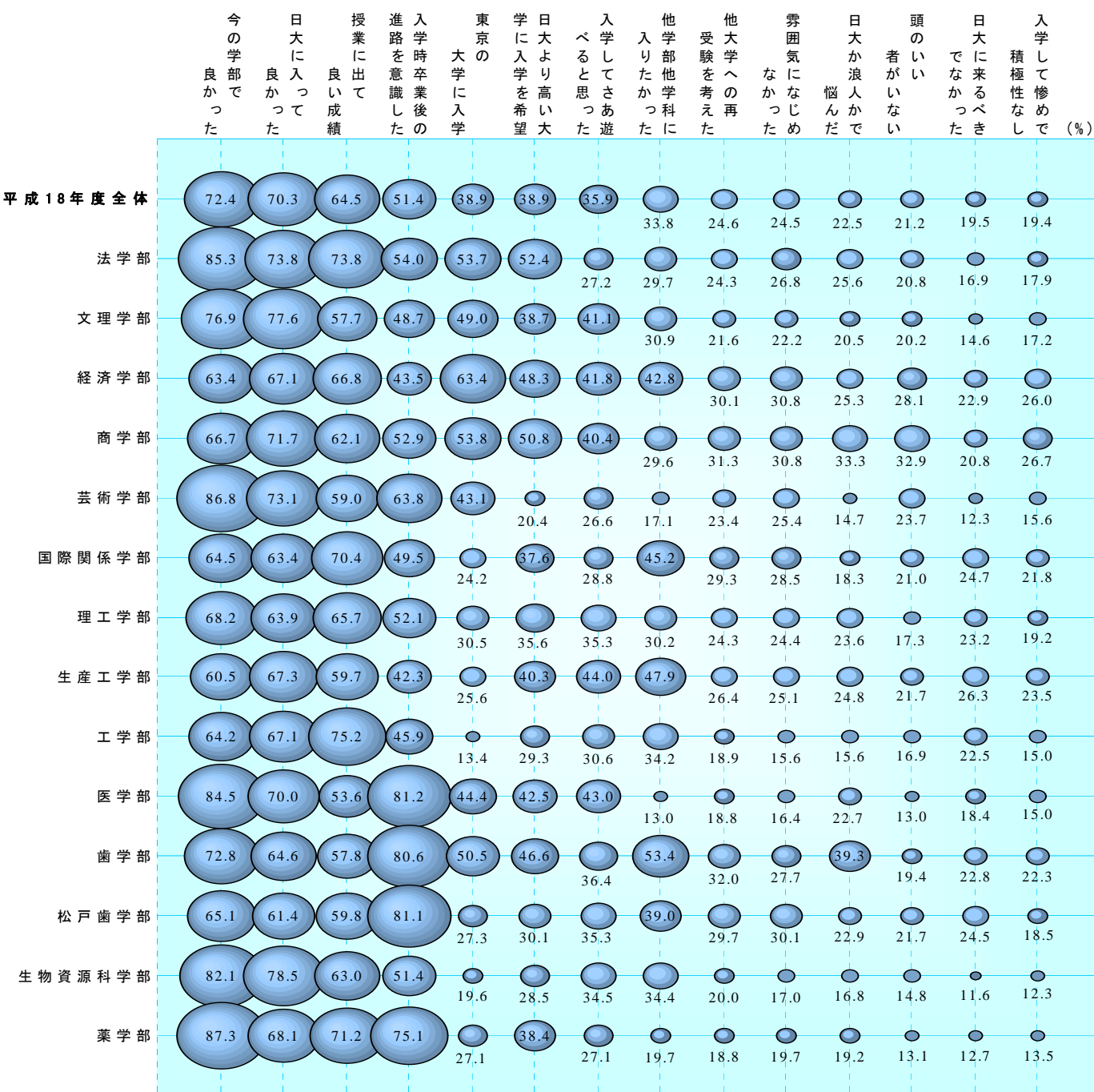
3年前と比較すると、経済学部と商学部では「授業料が安いから」が7～8ポイント増、芸術学部では「社会で活躍している卒業生が多い」、生物資源科学部では「大学に見学に来て気に入った」と「ユニークな学科がある」がそれぞれ5ポイント増となっています。



### 3.入学直後の意識

入学直後、自分の学部・日大に入学したことに満足した学生は7割。  
特に、法学部・芸術学部・医学部・生物資源科学部・薬学部で高い。  
日大入学が不本意だった学生は2割程度。

入学した直後の意識について全体での高い順に並べたものが下図です。全体では「今の学部で良かった」「日大に入って良かった」が70%強で共に高くなっており、大半の学生が入学に関しては満足していることがわかります。「できるだけ多くの授業に出て良い成績をとろうと思った」と積極的な勉強意識を抱いていた学生が64.5%と3番目に高くなっています。その一方で、「日大に来るべきでなかった」「悔みで積極的になれなかった」と入学に不本意な意識を抱いていた学生も約20%ずつとなっています。法学部・芸術学部・医学部・生物資源科学部・薬学部では「今の学部で良かった」が80%台と、入学に満足していた学生の比率が高くなっています。「入学時に卒業後の進路・就職をすでに意識していた」学生の比率は医学部・歯学部系で81%、薬学部で75%と高い点が目立っています。

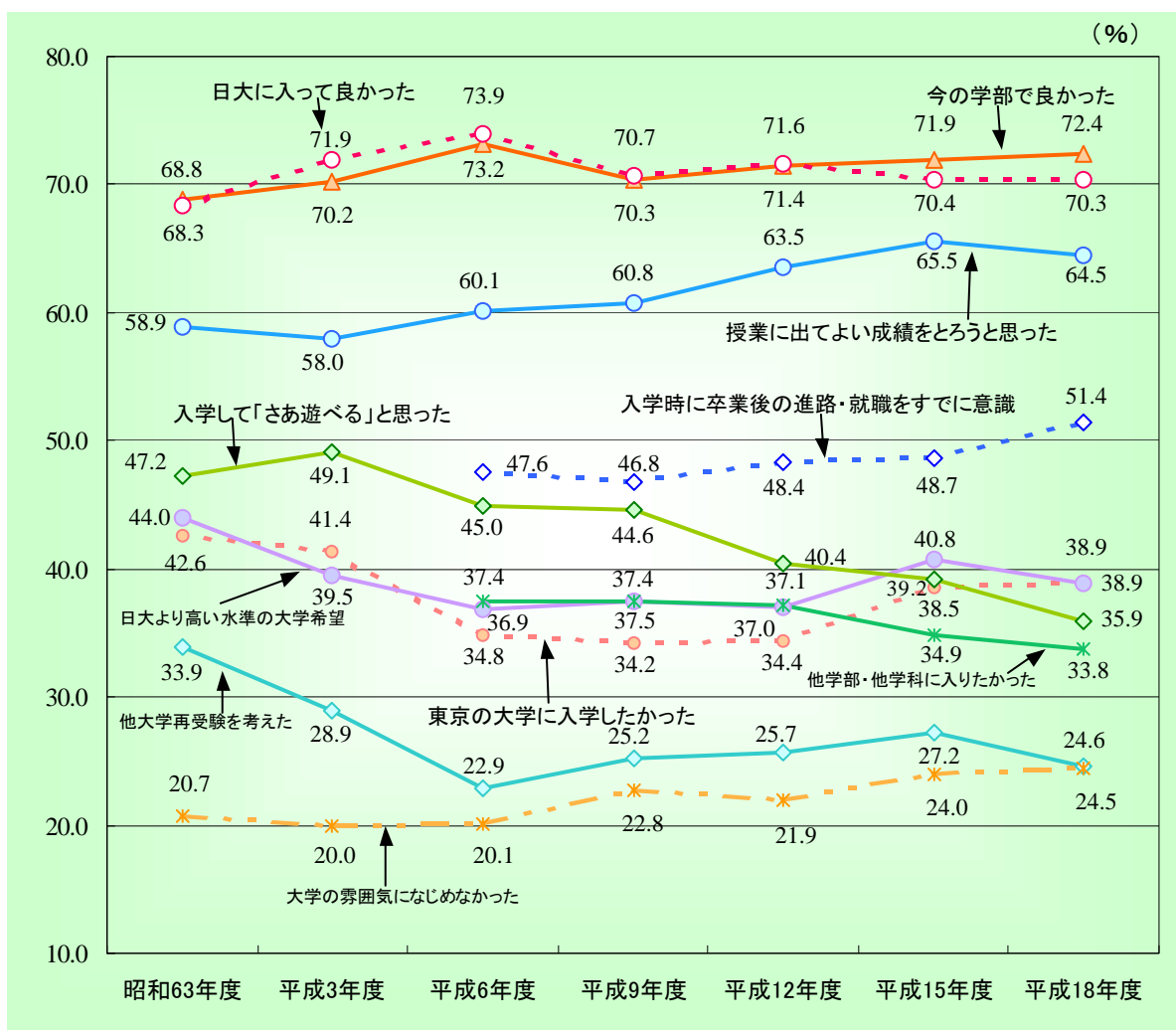


#### 4.入学直後の意識—主なものの経年変化

学部や日大へ入学直後の満足率は高まる傾向。  
「さあ遊べる」は減少，入学直後から勉学意識の高い学生が増加傾向。

入学直後の意識についての昭和63年度（18年前）からの経年変化を見ると、「今の学部で良かった」は68.8%から72.4%と3.6ポイント増、「日大に入って良かった」は68.3%から70.3%と2.0ポイント増，一方「日大より高い水準の大学希望」は44.0%から38.9%と5.1ポイント減，「他の大学への再受験を考えた」が33.9%から24.6%と9.3ポイント減，さらに「他の学部・学科に入りたかった」も平成6年度（12年前）の37.4%から33.8%と3.6ポイント減となっています。入学直後の学部・日大への入学の満足率は，高まる傾向にあると言えます。工学部と生物資源科学部では，学部への満足率が高まる傾向が強く見られます（「今の学部で良かった」が平成3年から10ポイント以上減，かつ「他の学部・学科に入りたかった」が平成6年から14ポイント以上減）。

「できるだけ授業に出て良い成績をとろうと思った」学生が18年間に5.6ポイント増加，一方「さあ遊べると思った」学生は同期間に11.3ポイント減少しており，入学直後から勉学意識が高い学生が増加していることがわかります。この傾向が濃く表われている学部は，法学部・文理学部・歯学部です（両項目で10ポイント以上増減）。

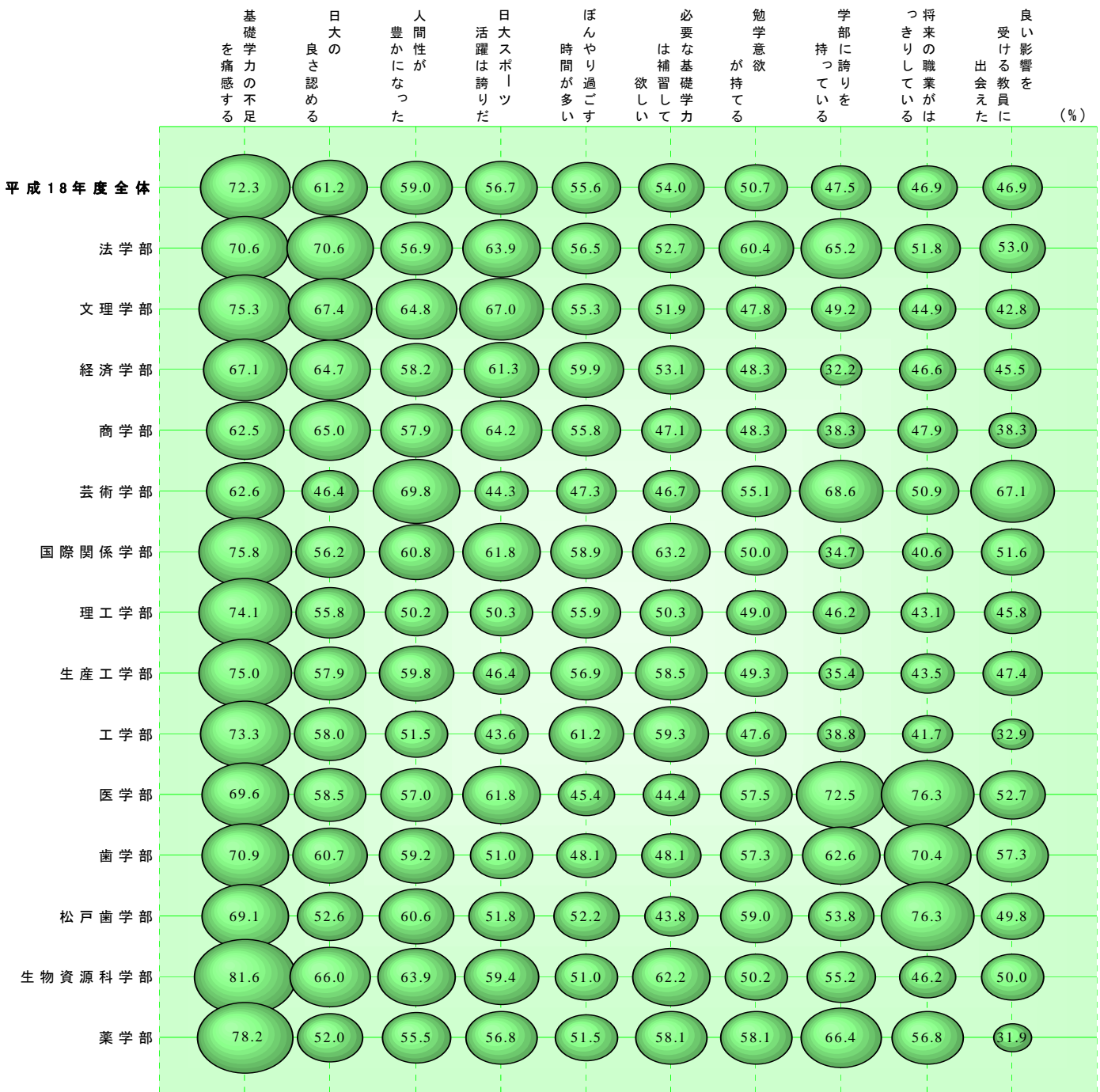


## 5.現在の意識・行動(上位10項目)

現在「基礎学力の不足を痛感」している学生が72.3%。補習の要望も過半数。学部に対して誇りを持っている学生の比率は、学部による差が大。

学生の現在の意識について全体での高い順に上位10項目を表示したものが下図です。

全体では「基礎学力の不足を痛感する」が72.3%でトップとなっています。次いで「日大の良さを認める」(61.2%)、「人間性が豊かになった」(59.0%)、「日大スポーツの活躍は誇り」(56.7%)の順で続き、「必要な基礎学力は補習して欲しい」(54.0%)、「勉学意欲が持てる」(50.7%)など7項目が過半数となっています。「学部に対して誇りを持っている」学生は、医学部・芸術学部・薬学部・法学部の順に高く(65%以上)、経済学部・国際関係学部・生産工学部の順に低く(35%以下)、学部による開きが大きくなっています。医学部・歯学部系では「将来の職業がはっきりしている」が70%超、芸術学部では「人間性が豊かになった」「良い影響を受ける教員に出会えた」が70%弱と高い点が目立っています。

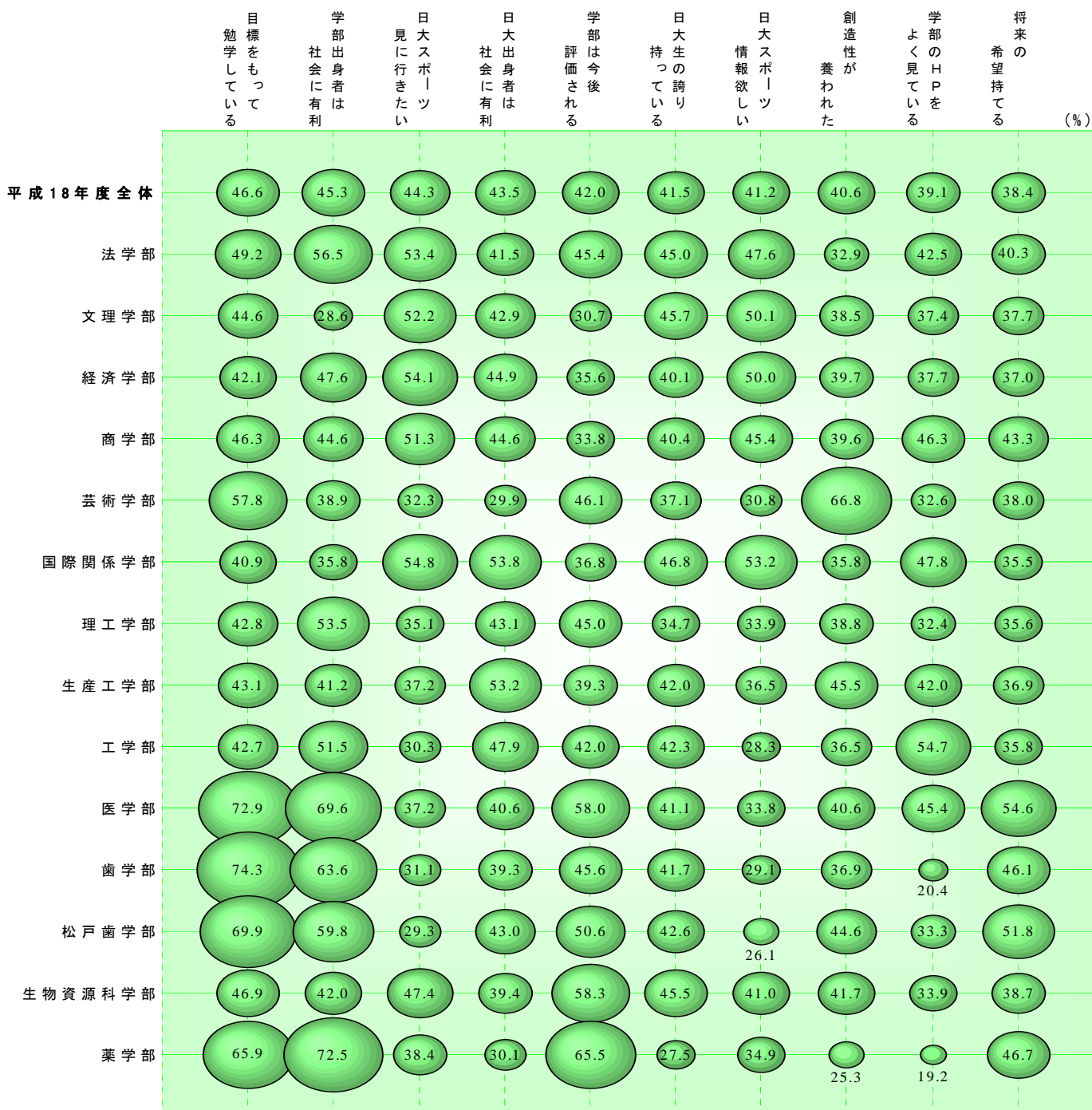


## 5.現在の意識・行動(中位10項目)

医学部・歯学部系と薬学部は「目標をもって勉学・学部出身者は社会に出てから有利」、芸術学部は「創造性が養われた」、国際関係学部は日大のスポーツに関心が高い。

学生の現在の意識について上位11～20位までを表示したものが下図です。

全体の11位は「目標をもって勉学している」で46.6%。医学部・歯学部系で70%以上、薬学部で65.9%と高くなっています。これらの学部では「学部出身者は社会に有利」という意識も60%以上と高くなっています。「学部は今後評価される」は薬学部・生物資源科学部・医学部で58%以上と高くなっています。芸術学部では「創造性が養われた」(66.8%)、国際関係学部では「日大のスポーツ」に対する関心(見に行きたい、情報が欲しいが50%強)と「日大出身者は社会に有利」(53.8%)といった意識が高くなっています。学部のホームページの閲覧状況は、工学部で高く(よく見ているが54.7%)、薬学部・歯学部で低くなっています(同約20%)。



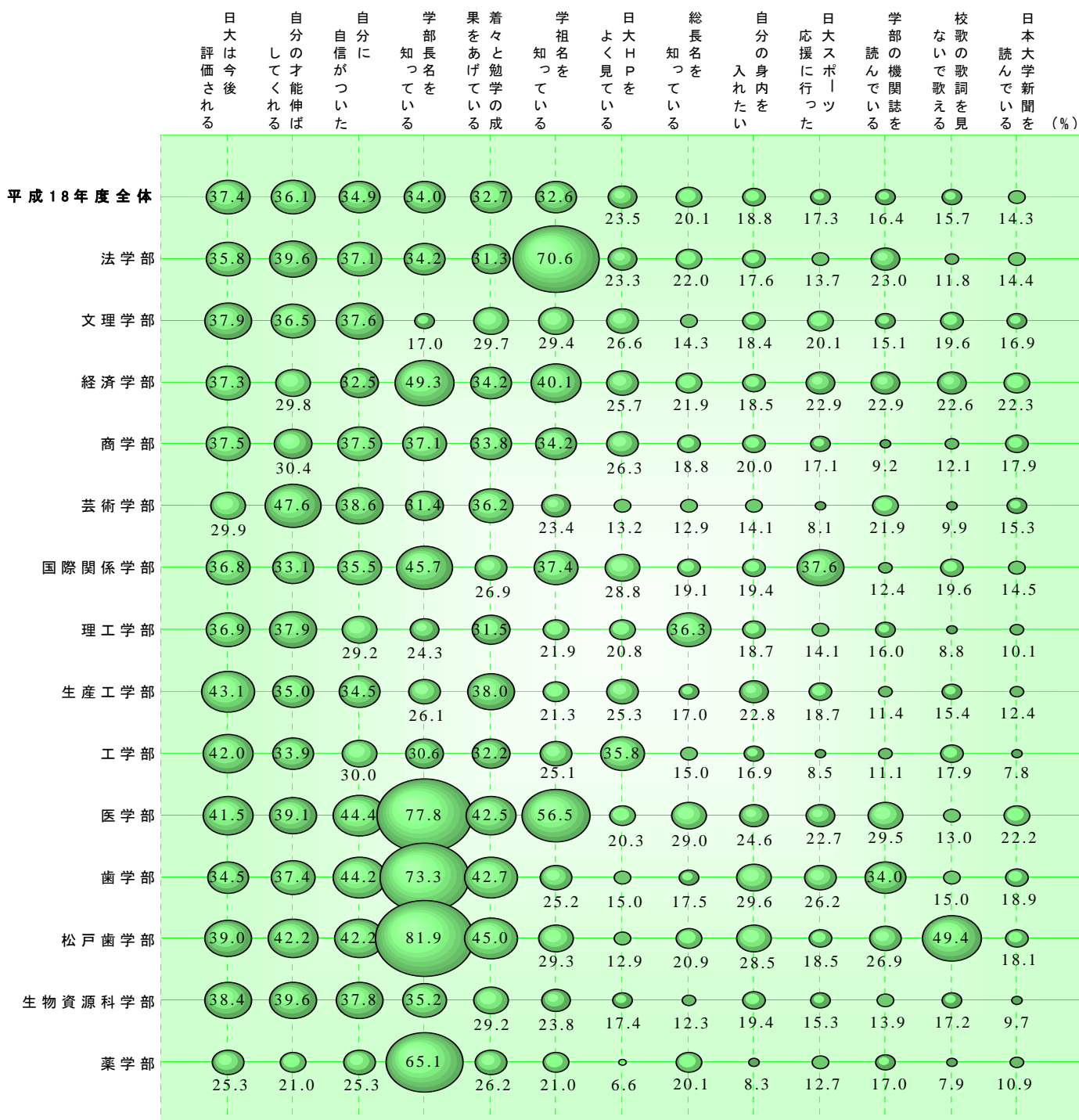
## 5.現在の意識・行動(下位13項目)

日大全体の情報については関心が薄い傾向。  
学祖名の認知率は32.6%，法学部でも70%にとどまる。

学生の現在の意識について21～33位までを表示したものが下図です。本大学についての情報に関する項目が多く見られます。

「学祖名（山田顕義先生）を知っている」本学学生は32.6%となっています。学祖が明治政府の初代司法大臣であることを考慮すると、法学部の70.6%も決して高いとは言えません。「学部長名を知っている」と回答した学生は全体の34.0%で、医学部・歯学部系で73%以上と非常に高くなっています。

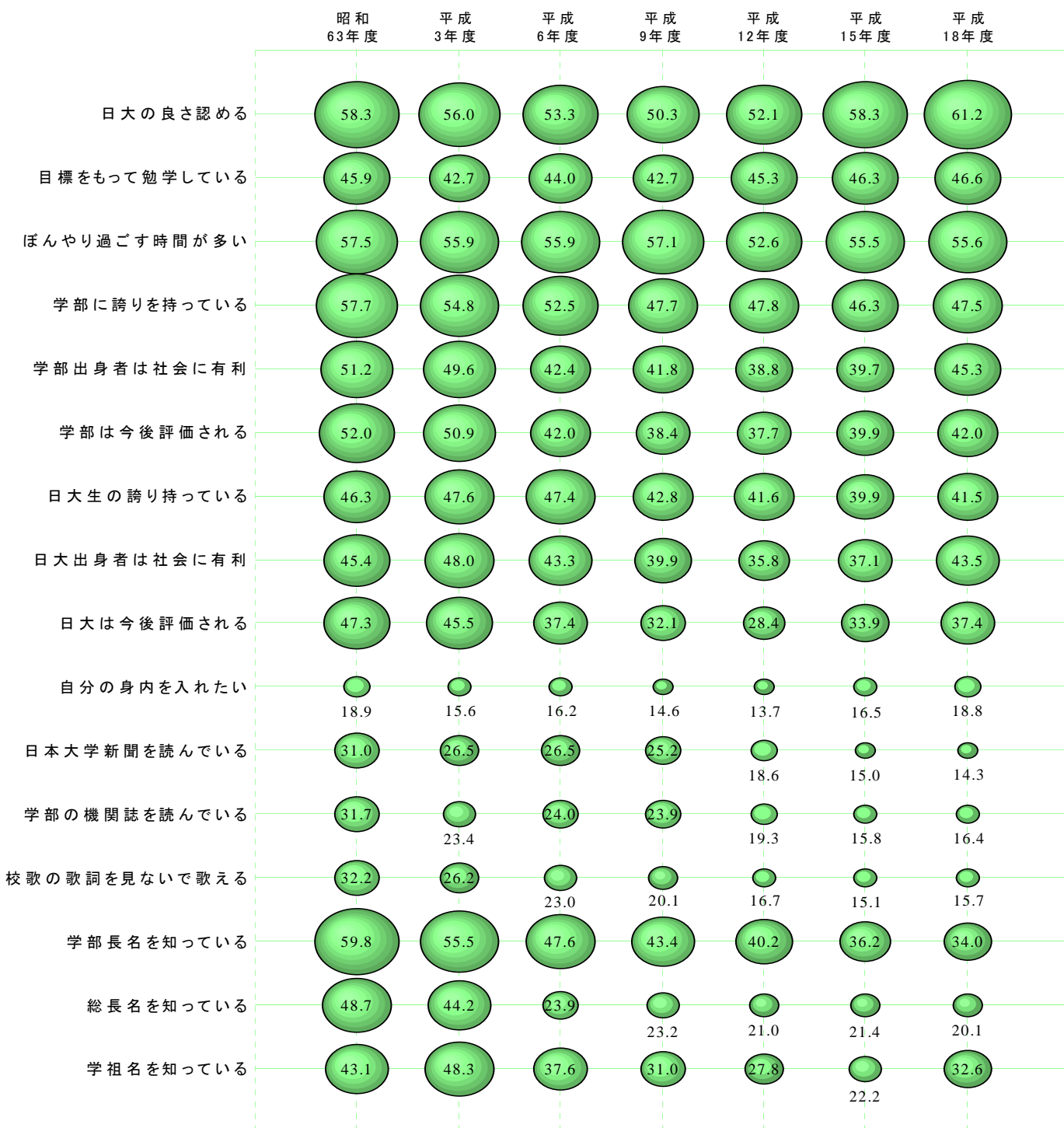
「日大のホームページをよく見ている」学生は23.5%，「日本大学新聞をよく読んでいる」学生は33項目中最低の14.3%と少なく，日大全体の情報については全般的に関心が薄い傾向が見られます。



## 6.現在の意識・行動の経年変化

「日大の良さを認める」学生は9年前から増加，学部に対する評価は低下傾向。  
日大や学部についての情報の活字離れが浮き彫り。

第1回調査（昭和63年）から連続している調査項目について，現在の意識・行動を経年変化で見ると，「日大の良さを認める」は，平成9年度を底に平成18年度まで上昇傾向にあります。「学部に誇りを持っている」「学部は今後評価される」は逓減傾向にあり，18年間で10ポイント減少しています。「日大新聞」「学部の機関紙」は逓減傾向が顕著であり（18年間で15～17ポイント減），情報の活字媒体離れが浮き彫りとなっています。18年間に総長は第7代から第11代まで5代就任しておりますが，知名度は減少の一途を辿っています（昭和63年度の48.7%から28.6ポイント減）。学部長名も同様の傾向にあります（同59.8%から25.8ポイント減）。





## 6.現在の意識・行動の経年変化(3年前との比較)

3年前と比較して、学部のホームページをよく見ている学生が大幅に増加。  
 法学部では「勉学意欲が持てる」、医学部では「着々と勉学の成果をあげている」など、  
 歯学部では「目標を持って勉学している」学生の増加ポイントが大。

現在の意識・行動についての回答を、前回(3年前)と比較したものが下表です。

全体で見ると、「学部のホームページをよく見ている」学生が14.3%と大幅に増加しています。法学部・国際関係学部・工学部では20ポイント以上も増加しており、学部の情報媒体がHPに移行する傾向が顕著に見られます。「学祖名(山田顕義先生)を知っている」は10.4ポイント増加しています。

学部別に10ポイント以上増加した項目を見ると、法学部では「日大の良さを認める」「勉学の意欲が持てる」、経済学部では「良い影響を受ける教員に出会えた」、商学部では「将来の希望が持てる」「日大スポーツ活動は誇り」、国際関係学部では「日大スポーツ応援に行った」「日大出身者は社会に有利」、生産工学部では「日大出身者は社会に有利」、工学部では「学部出身者は社会に有利」、医学部では「着々と勉学の成果をあげている」「必要な基礎学力を補習して欲しい」「創造性が養われた」など、歯学部では「日大の良さを認める」「目標を持って勉学している」などとなっています。

現在の意識・行動の前回(3年前)との比較 ■ …10ポイント以上減少 ■ …10ポイント以上増加 <増減ポイント>

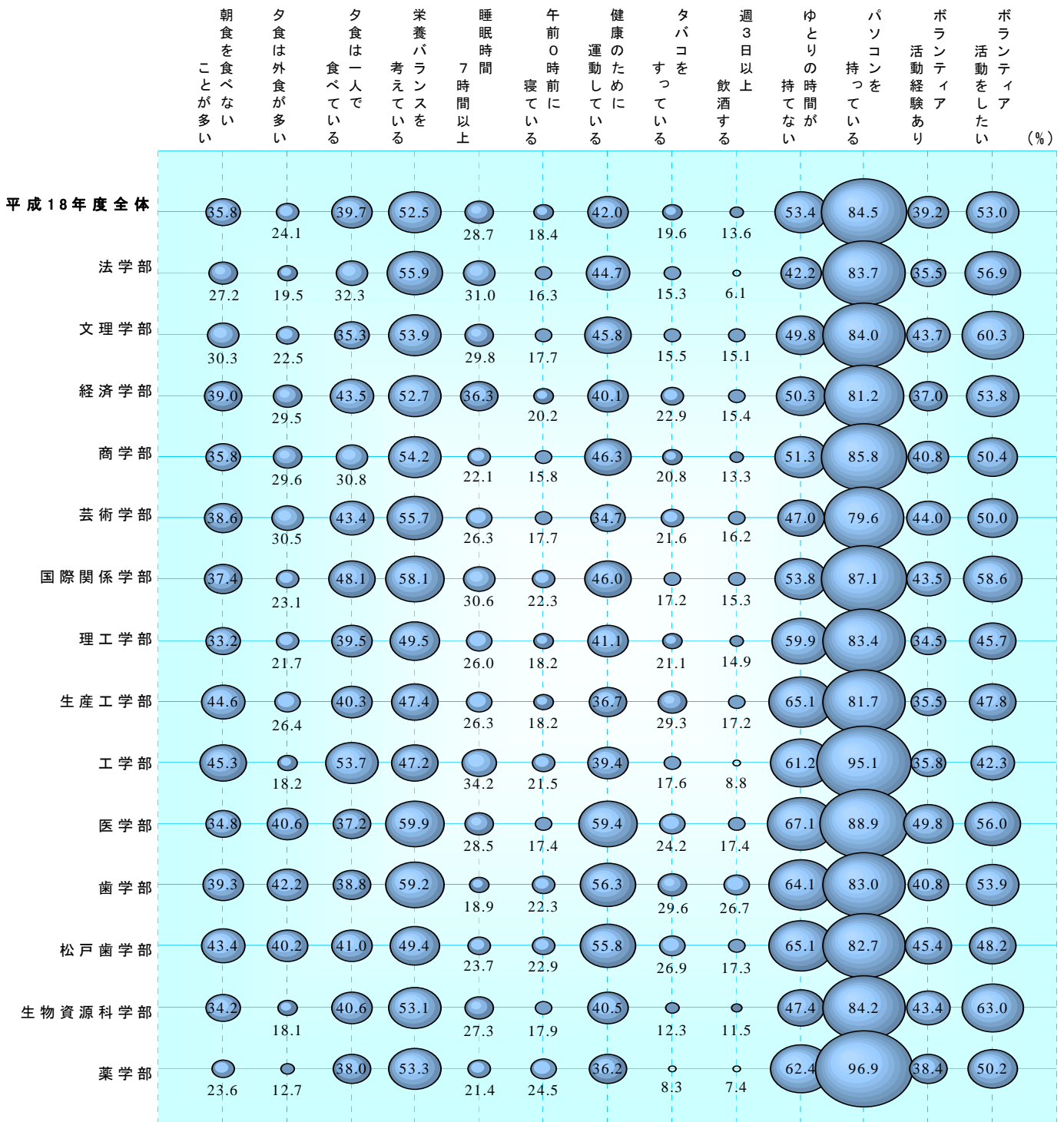
	H18年度	前回差	法	文理	経済	商	芸術	国際	理工	生産 工	工	医	歯	松戸 歯	生物 資源	薬
日大の良さを認める	61.2%	2.9	10.5	5.1	7.4						5.7		13.4			-5.5
勉学意欲が持てる	50.7%	7.0	15.4	8.3	9.3	7.5		8.5		6.8	5.3			5.4	6.1	
将来の希望持てる	38.4%	6.3		9.6	9.8	11.2	6.1	5.8		6.1	6.9	7.8	5.1		7.8	
自分に自信がついた	34.9%	0.1										7.1	8.2			
人間性が豊かになった	59.0%	0.3							-7.1							
着々と勉学の成果をあげている	32.7%	4.0	6.9		7.8	7.9					5.4	13.4			5.5	
創造性が養われた	40.6%	0.9							-5.8			10.2			6.9	
基礎学力の不足を痛感する	72.3%	-1.5				-6.5	-8.9									-7.3
必要な基礎学力は補習して欲しい	54.0%	-1.6	-5.1				7.4		-8.5			11.5	5.8	-11.3		
目標をもって勉学している	46.6%	0.3	-6.5										11.2			
将来の職業ははっきりしている	46.9%	-1.2									-6.3					-5.8
ぼんやり過ごす時間が多い	55.6%	0.1										-6.5				-6.9
良い影響を受ける教員に出会えた	46.9%	3.3	9.2		10.9			9.6			-5.7	9.0	5.9		5.9	
学部に誇りを持っている	47.5%	1.2		7.3									9.4		6.1	
学部出身者は社会に有利	45.3%	5.6	7.1	8.0	8.6					7.4	10.6	6.9			5.5	
学部は今後評価される	42.0%	2.1					5.2				7.4	6.7	5.1		6.5	
日大生の誇り持っている	41.5%	1.6		7.6	5.1										8.5	-7.1
日大出身者は社会に有利	43.5%	6.4		8.2	8.3	6.2	6.1	11.6		12.2		9.0	6.4	-7.2	9.3	
日大は今後評価される	37.4%	3.5		6.5							7.6		7.5		8.8	
自分の身内を入れたい	18.8%	2.3											5.7	-5.1	7.2	-6.2
自分の才能伸ばしてくれる	36.1%	3.4	9.6	5.7							7.1		8.1		5.4	
日大スポーツ活躍は誇りだ	56.7%	4.3	7.9			12.7	8.7					12.4	6.4	6.5	5.6	11.9
日大スポーツ応援に行った	17.3%	2.0			7.0			15.8								-5.3
日大スポーツ情報欲しい	41.2%	-0.6					5.0				-8.3					-6.0
日大スポーツ見に行きたい	44.3%	2.2	5.1		7.4	7.5										
日本大学新聞を読んでいる	14.3%	-0.7														
学部の機関誌を読んでいる	16.4%	0.6			7.5											-10.5
校歌の歌詞を見ないで歌える	15.7%	0.6		6.9	7.2			6.6								
日大HPをよく見ている	23.5%	7.6	9.8	11.4	9.4			15.5		8.0	16.7		5.5			
学部のHPをよく見ている	39.1%	14.3	22.4	17.7	10.5	6.4	11.1	28.0	9.2	17.7	20.8	15.0		5.0	9.7	
学部長名を知っている	34.0%	-2.2	-6.3		11.5		-10.9	-5.2				-5.1		-9.0		
総長名を知っている	20.1%	-1.3	-14.9						17.1			-38.1	-10.4	-21.7		-6.1
学祖名を知っている	32.6%	10.4	16.7	8.8	16.1	13.1	11.7	12.5	5.5	5.7	13.7	19.2				8.8

(注)学部別は、増減が5ポイント未満は非表示。

## 7.日常生活および個人行動について

食事に注意している学生は過半数、「朝食を食べないことの多い」学生は3分の1。  
夜型・睡眠不足気味の学生が多数派。「ゆとりの時間がもてない」も過半数。

食事面を全体で見ると、「朝食を食べないことが多い」学生は35.8%、「栄養のバランスを考えている」が52.5%となっており、過半数の学生は食事に注意しているようです。睡眠については「7時間以上」は28.7%、「午前0時前に寝ている」が18.4%と、夜型で睡眠不足気味の学生が多数を占めています。「健康のために運動している」学生は半数を切っています。勉学などのために「ゆとりの時間が持てない」学生は53.4%と過半数となっています。医学部・歯学部系では、「健康のため運動している」学生の比率は高い反面、外食率や喫煙率「ゆとりの時間が持てない」が高くなっています。



## 8.日常生活についての経年変化

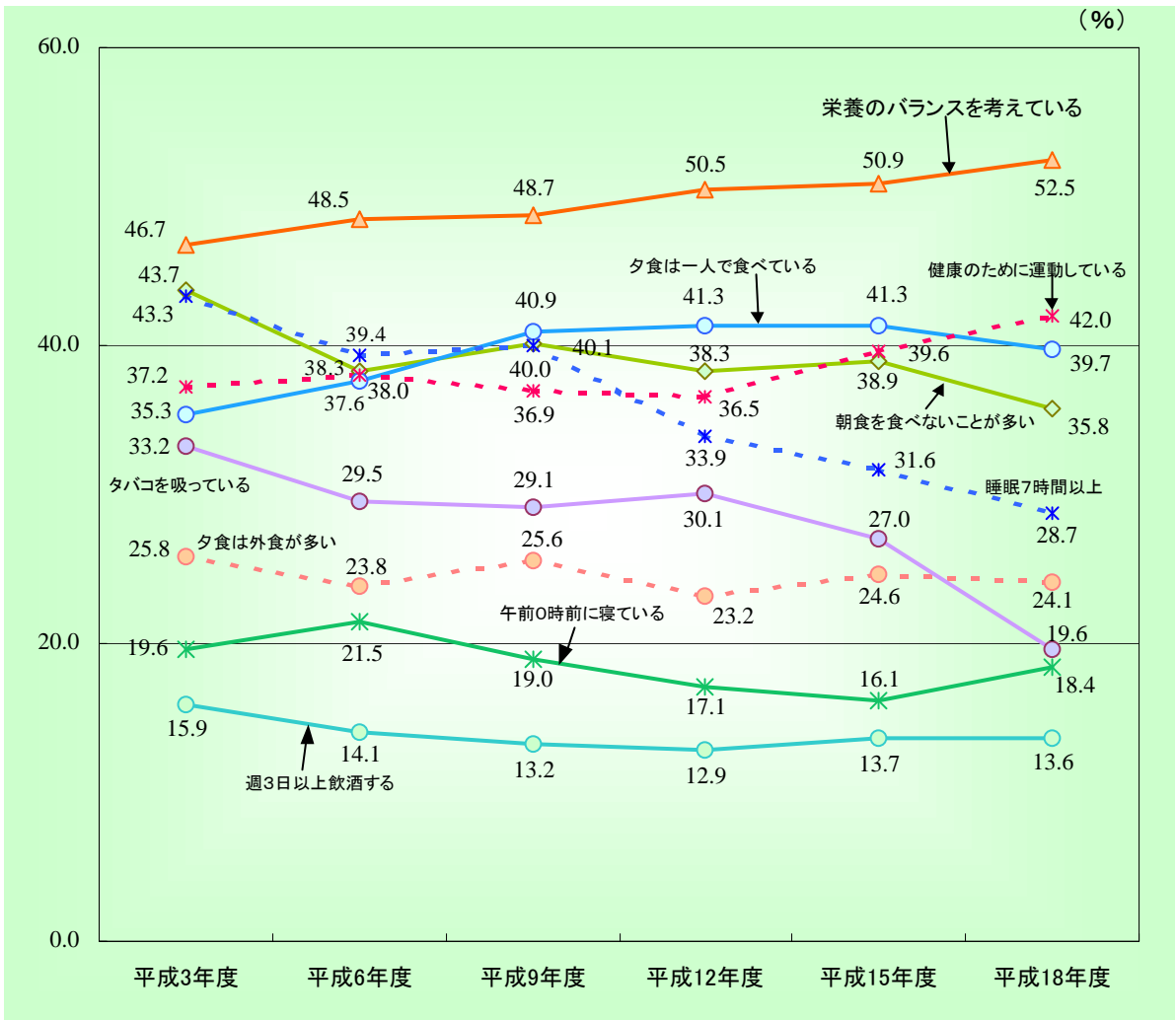
健康志向が高まる一方で、十分な睡眠が取れていない学生が増加傾向。

学生の日常生活について平成3年度からの経年変化を見ると、「栄養のバランスを考えている」が46.7%から52.5%ポイント増加、「朝食を食べないことが多い」は43.7%から35.8%ポイント減少しており、食事面に注意する傾向が見られます。

睡眠について見ると、「午前0時前に寝ている」学生の比率はわずかな減少にとどまっていますが、「睡眠時間7時間以上」が14.6%ポイントと減少幅が大きく、十分な睡眠不足が取れていない学生の増加が目立ちます。

「健康のために運動している」学生は37.2%から42.0%ポイント増加しています。社会の禁煙傾向の準じて、喫煙率が33.2%から19.6%ポイント減少しています。

食事、運動などの面では、健康志向が高まる傾向が見られます。



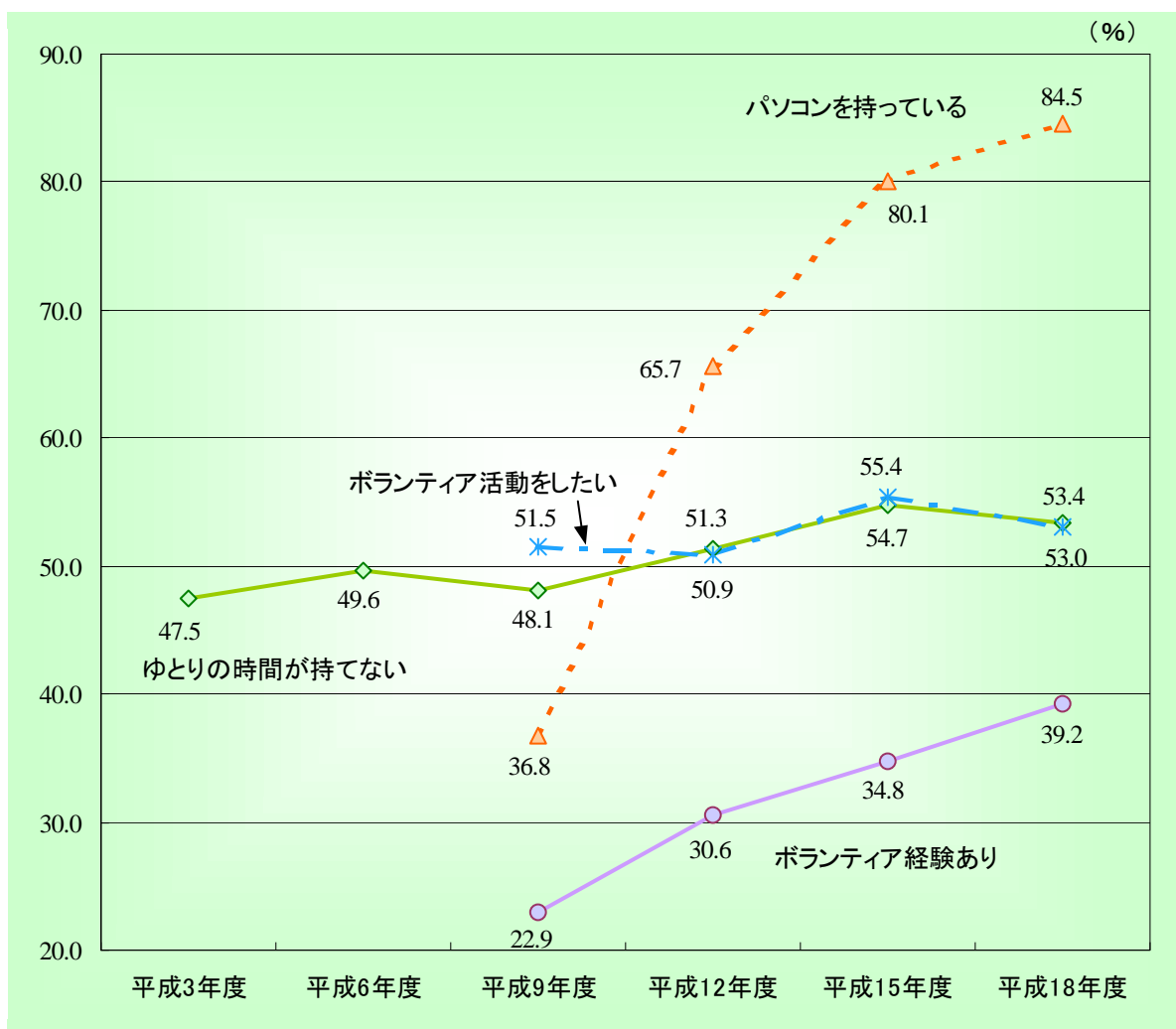
## 9.ゆとり・余裕についての経年変化

ゆとりの時間が持てない学生が徐々に増加。学部によって増減やその時期に差。  
パソコンの所有率は急上昇。ボランティア経験率も毎年高まる傾向。

ゆとり・余裕面での経年変化を見ると、「ゆとりの時間が持てない」学生が平成3年度の47.5%から5.9ポイント増加しています（ただし、3年前より1.3ポイント減）。学部別に見ると、医学部・経済学部・工学部は平成3年度から、国際関係学部と文理学部は平成6年度から、商学部と芸術学部では平成12年度からの増加ポイントが最大（医学部では17.1ポイント減、国際関係学部では19.8ポイント減など）、歯学部・松戸歯学部では平成6年度と比べると10ポイント以上減少しており、学部によって「ゆとり」の増減やその時期に差がみられます。

パソコンの所有率は、ここ9年間に50ポイント近くと急激に伸びており、平成18年度は84.5%になっています。工学部と薬学部では95%を超えています。

ボランティア経験も平成9年度の22.9%から毎年増加し、16.3ポイント増の39.2%になっています。

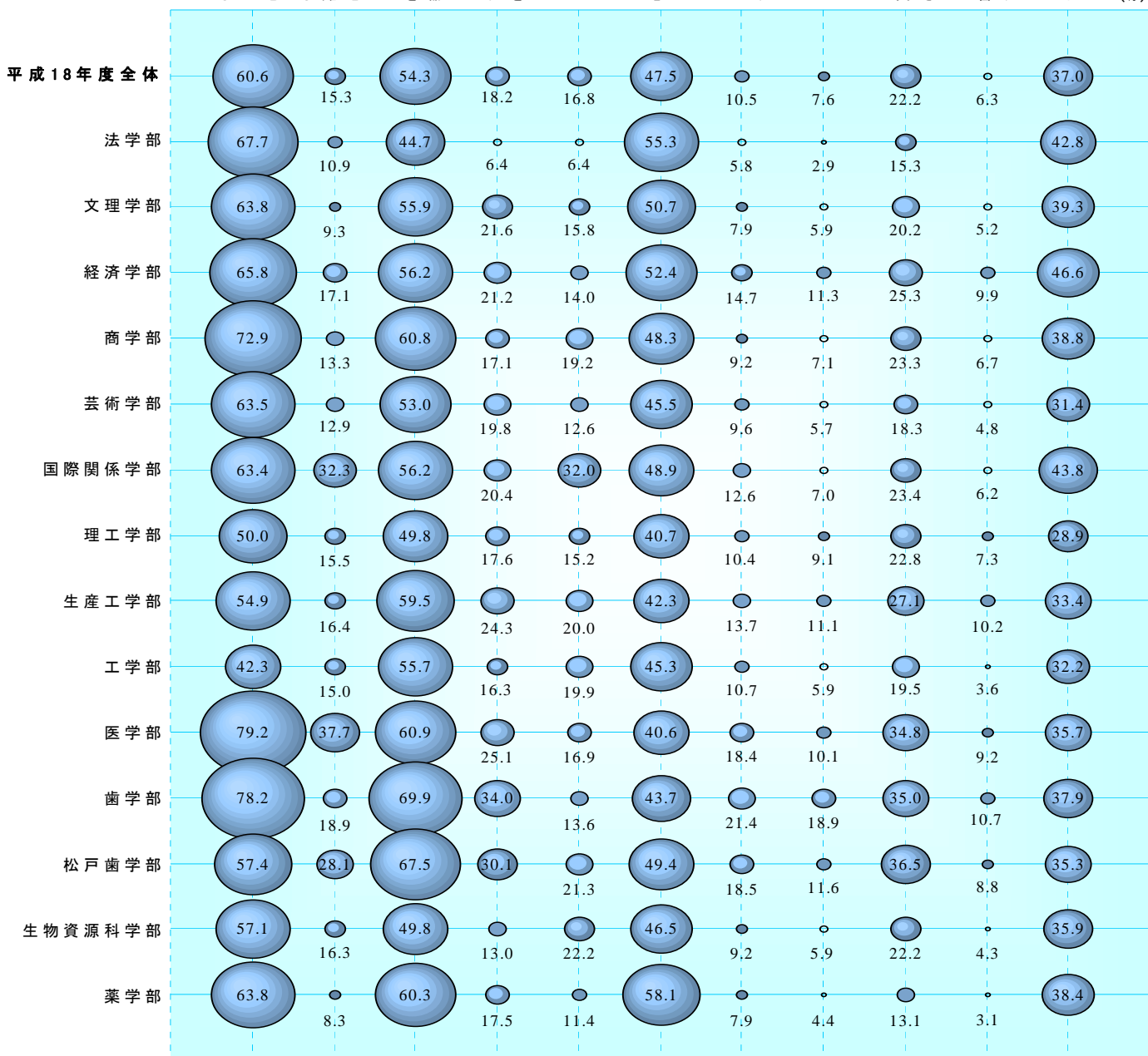


## 10.安心できる大学環境について

校舎内での災害時の安全性に不安を感じている学生は60%。  
避難方法を知っている学生は15%にとどまる。

「校舎内で火災・地震等が発生した時の安全性に不安を感じる」とする学生は全体の60.6%で、医学部・歯学部では80%弱と高くなっています。一方で、「避難方法を知っている」学生は15.3%にとどまっています（医学部・国際関係学部では30%台と高め）。個人情報について「大学は細心の注意を払っている」と回答した学生は47.5%と半数を割っています。セクハラや差別についての経験率は、「教員から」が10.5%、「学生間」が7.6%で、歯学部で高めとなっています。「入学時学生生活のマニュアルやガイダンスが必要」とする学生が、全体の37.0%となっています。

入学時学生生活のマニュアルやガイダンスが必要 (37.0%)  
学内の盗難、セクハラ等で大学・警察に届け出た (6.3%)  
教職員から公正さに欠けた扱いを受けたことがある (22.2%)  
学生間でのセクハラやいじめにあったことがある (7.6%)  
教職員からのセクハラや差別にあったことがある (10.5%)  
大学は学生の個人情報を細心の注意を払っている (47.5%)  
夕方暗くなつてから学内を歩くのに危険性を感じる (16.8%)  
学内でお金や物を盗まれたり壊されたことがある (18.2%)  
学内での盗難や器物破損の危険性を感じる (54.3%)  
校舎内で火災・地震等発生時の避難方法を知っている (15.3%)  
校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる (60.6%)



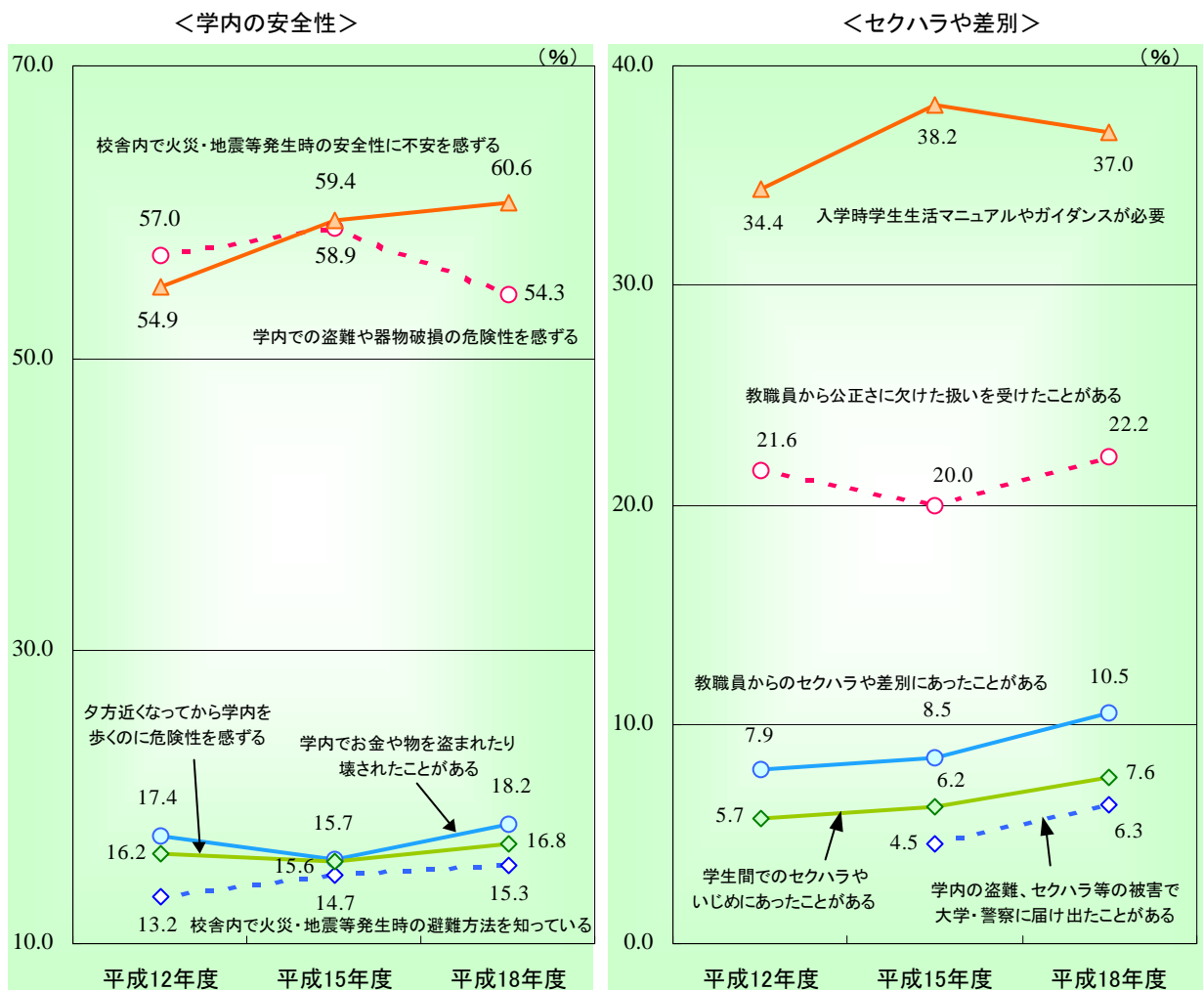
## 11.安心できる大学環境の経年変化

校舎内での災害発生時の安全性に不安を感じる学生は増加傾向。  
セクハラや差別問題に対する大学側の取り組みは、まだ十分効果が表われていない？

学内の安全性について、この項目が調査に含められた平成12年度からの経年変化を見ると、「校舎内で火災・地震等発生時の安全性に不安を感じる」学生は増加傾向にあり、6年間で5.7ポイント増となっています。薬学部・商学部・歯学部・芸術学部で増加傾向が強く見られます（薬学部の21.7ポイント増から芸術学部の12.4ポイント増まで高い順）。「避難方法を知っている学生」は2.1ポイントと微増となっており、災害時の避難方法についての指導が遅れているように思われます。

セクハラや差別についてみると、「教員から」が6年間に2.6ポイント増、「学生間」が1.9%増と微増傾向にあります。日大では平成13年度から「日本大学セクシュアル・ハラスメント等 인권侵害防止ガイドライン」を制定し、この問題に積極的に取り組んでいるものの、成果がまだ十分表われていないように思われます。

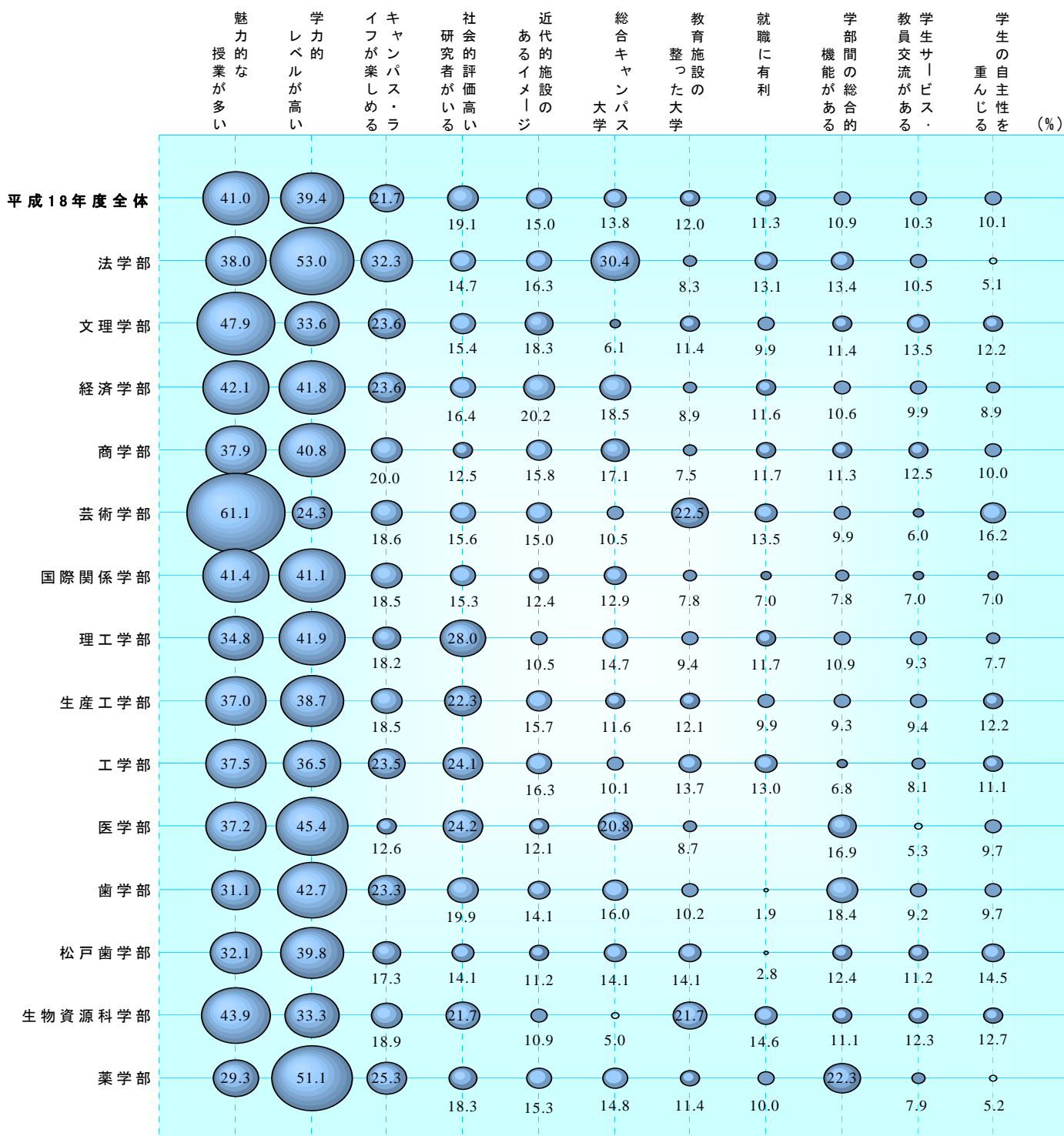
安心できる大学環境の経年変化



## 12. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なこと

「魅力的な授業」と「学力レベル」のアップが日大の政策面で有効と学生実感。  
キャンパス・ライフや施設面の充実が副次的。

日大を魅力ある大学にするために特に重要なことについての学生の回答を全体で見ると、「魅力的な授業が多い」(41.0%)と「学力的レベルが高い」(39.4%)が高くなっています。次いで「キャンパス・ライフが楽しめる」(21.7%)、「社会的評価の高い研究者がいる」(19.1%)が続いています。学生生活を楽しめることや施設面より、『勉学面の充実』が魅力ある誇れる大学になるために重要と考える学生が多いことがわかります。芸術学部は「魅力的な授業」、法学部と薬学部は「学力的レベルの高さ」を選んだ学生の比率が高くなっています。



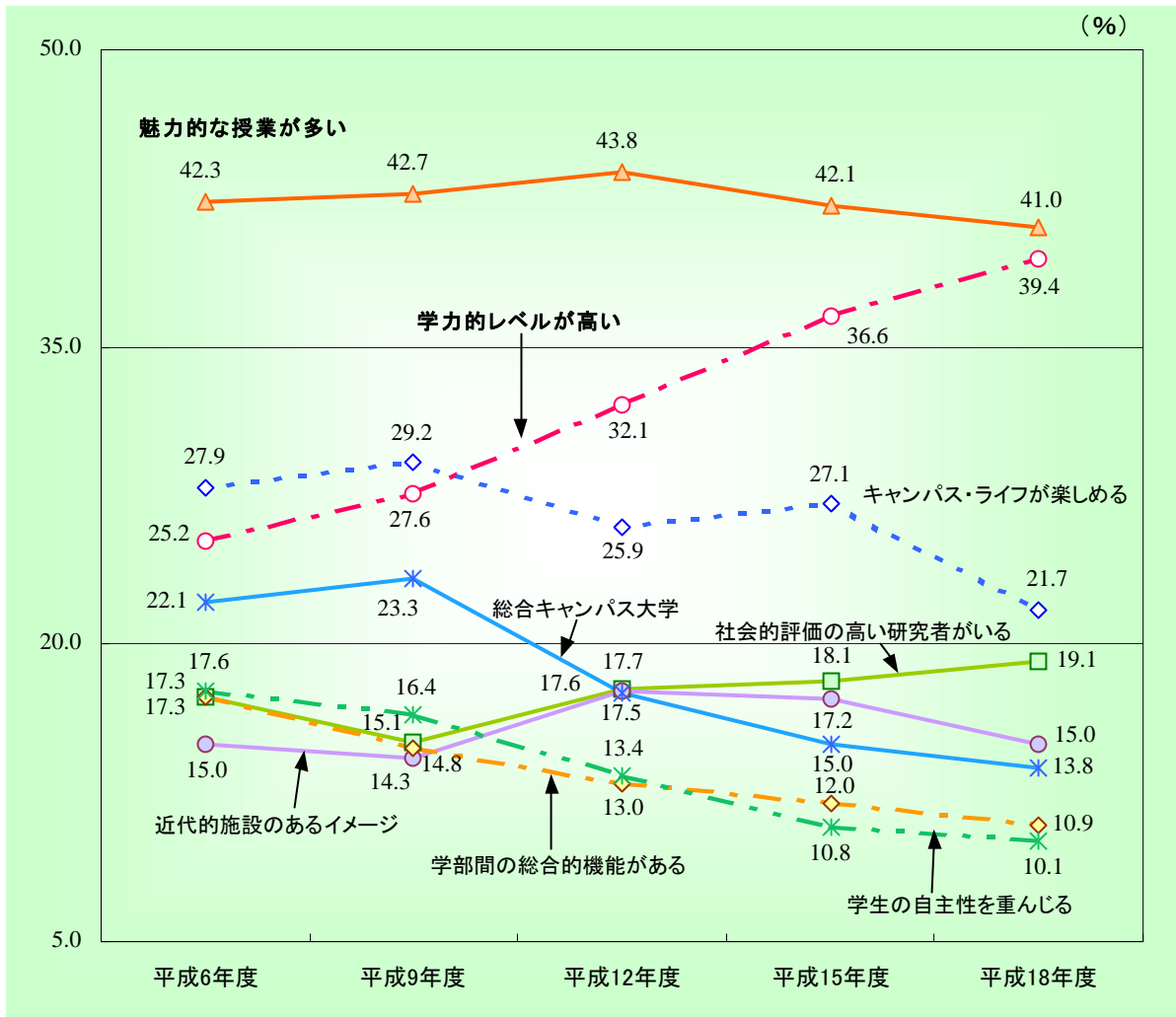
### 13. 日本大学を魅力ある誇れる大学にするために重要なことの経年変化

魅力ある大学づくりには勉学面での充実が重要とする傾向は年々強まる。特に、「学力的にレベルが高い」ことが急上昇。大学全入時代への提言！

日大を魅力ある大学にするために特に重要なことについての学生の回答を平成6年度から経年変化で見ると、「魅力的な授業が多い」が毎回トップとなっています。「学力的にレベルが高い」は12年間で14.2ポイントと大幅な増加となっています。「キャンパス・ライフが楽しめる」と「総合キャンパス大学」は遞減傾向にあります。「社会的評価の高い研究者がいる」は平成9年度から4.0ポイント増加しています。

勉学面での充実を図っていくことが重要だとする傾向は、年々強まっていく傾向にあります。学部別に見ると、法学部と薬学部の学生は「学力レベル」重視傾向が強く見られます（約30%から50%と20ポイント増）。医学部では「魅力的な授業が多い」ことを重視する傾向が強まっています（22.8%から37.2%と14.4ポイント増）。一方、国際関係学部では「外国人を受け入れたり外国への留学機会が多い国際大学」（44.0%から24.4ポイント減）で減少幅が大きくなっていますが、これは同様の特色を持った大学が増加してきたためと考えられます。

大学全入時代に向かって大学間の競争が激化してゆく中、日大が魅力を高めてゆくために必要な施策として、『勉学面での充実重視』は学生からの提言だと受け止めることができるでしょう。





## 入学時のモチベーションを保っているか

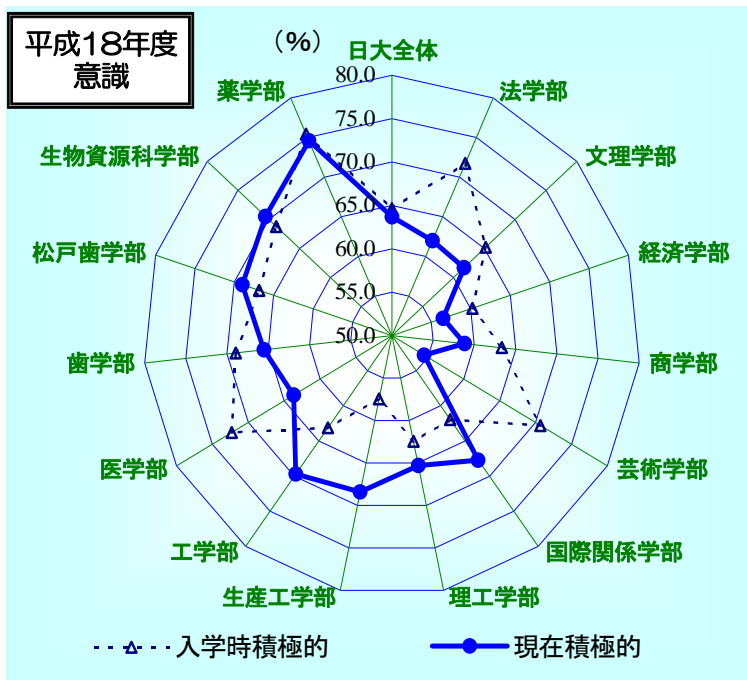
ここでは、勉学に対する態度が入学時と現在でどう変化しているかを見ます。

### 学生の勉学意欲（平成18年度）

左のグラフを見ると、14学部中8学部において「現在積極的」線の数値が「入学時積極的」線の数値を下回っており、6学部で上回っていることがわかります。つまり学部全体で見ると、入学時のモチベーションが低下した学部、より一層勉学に励んでいる学部、入学時の意気込みを保っている学部等様々であることがわかります。

例えば、生産工学部は入学時積極的だった学生の割合が最も低かったものの、現在は授業に積極的な学生が10ポイントも増加して日大平均をも上回り、勉学態度が入学後に向上したことがうかがえます。工学部や国際関係学部でも5ポイント以上増加しています。また、理工学部・松戸歯学部・生物資源科学部も小幅ながら上昇しています。

薬学部は、入学時積極的だった学生が75%超と非常に高く、そのモチベーションが現在でも保たれていることが分かります。女子学生が6割と高いことや、昨今の薬学部人気と関係があるのかも知れません。逆に芸術学部、法学部、医学部（-16~-9ポイント）などでは低下しています。入学時のモチベーションが非常に高く、入学後は積極的な勉学態度を維持できなかった学生が多いようです。



グラフの ●実線が外側- ●点線が外側- ●接近-  
 見方: モチベーションが モチベーションが 大きな変化なし  
上がった。 下がった。

※入学時積極的とは:「入学時に卒業後の進路等を意識」「多くの授業に出て好成績をとる」「今の学部に入って良かった」「日本大学に入って良かった」の項目の%の平均値

※現在積極的とは:授業中「授業や自主的テーマで積極的な勉学」「必要な単位を着実に取得する勉学」の項目の%の合計

### 経年変化

日本大学全体の経年変化を見ると、勉学に対して入学時に積極的な態度を示している学生（「入学時積極的」）は60%強で推移しており、昭和63年の調査以来大きな変化はありません。しかし、「現在積極的」は平成3年度から直線的に上昇し、15年間で約20ポイントも増加しています。各学部での教育改革の積極的な取り組みの成果が顕著に表われていると言えるでしょう。

特に、生産工学部や生物資源科学部、商学部などでこの傾向が色濃く表われており、今度の動向に注目できるでしょう。また、薬学部は平成9年度から両者が接近しており、9年前から、入学後も高い勉学意欲をから保つ傾向がみられます。

